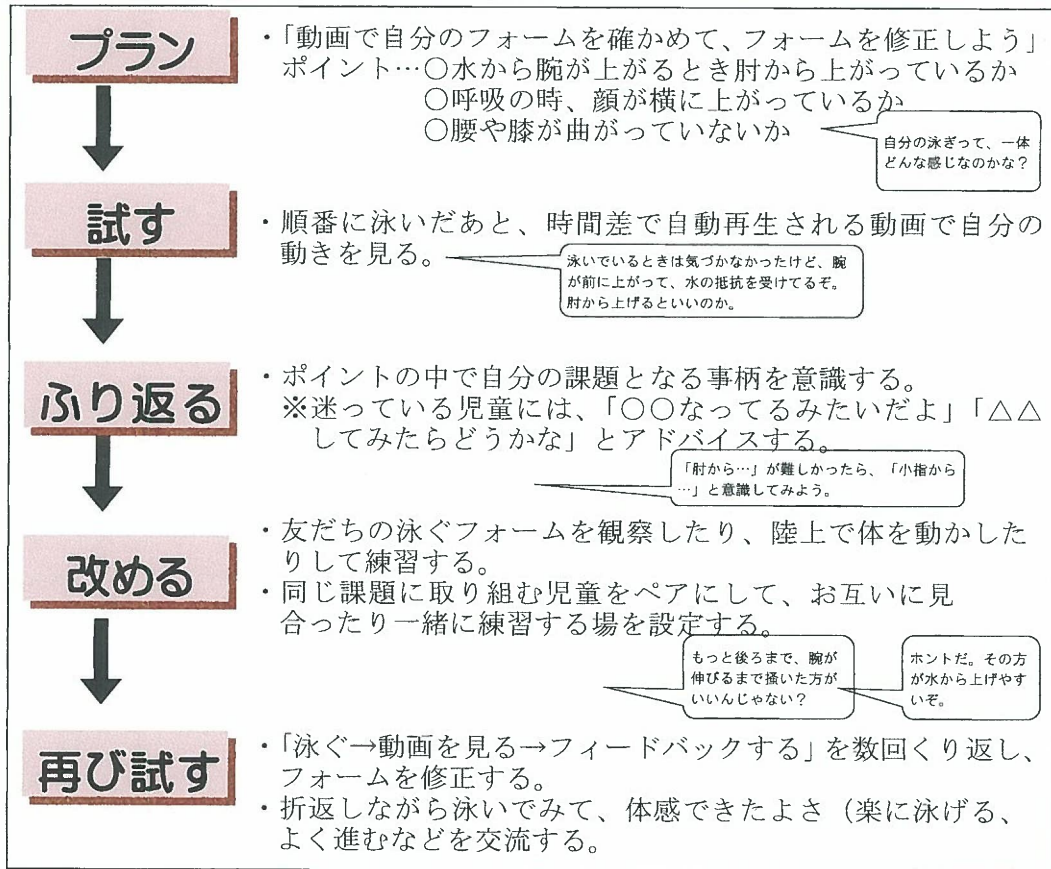


私がお勧めのアクティブラーニング（場面で説明する場合 例）
佐伯市立（本匠）学校 氏名（三股 寿）

学年（小学5.6年生）	教科（体育）
単元名等	水泳（クロール）
主眼	ICT機器で自分の泳いでいる様子を見ることを通して、自分の力に適した課題を見つけ、より効率的に長い距離泳げるフォームに修正することができる。
評価規準【観点】	自分の泳ぐフォームを見て、課題を見つけ、解決に向けて工夫して練習することができる。【思考・判断】

1 アクティブラーニング実践場面

指導のプロセス



時間差で自動再生するタブレットの機能を使って、水泳のフォームを修正する授業を行った。自分の動きを自分の目で見たことで、自分の課題を把握し易くなった。更に、「見る→課題を意識する→試す」を繰り返したことで、フォームの修正につながった。

2 所感

児童が、自分自身の動きを見せたことは、課題を把握させる上で有効だった。今後、器械運動などにも活用したい。一方、運動時間の確保や、動きの修正に向けた具体的な指導のあり方については、改善の余地がある。

私がお勧めのアクティブラーニング

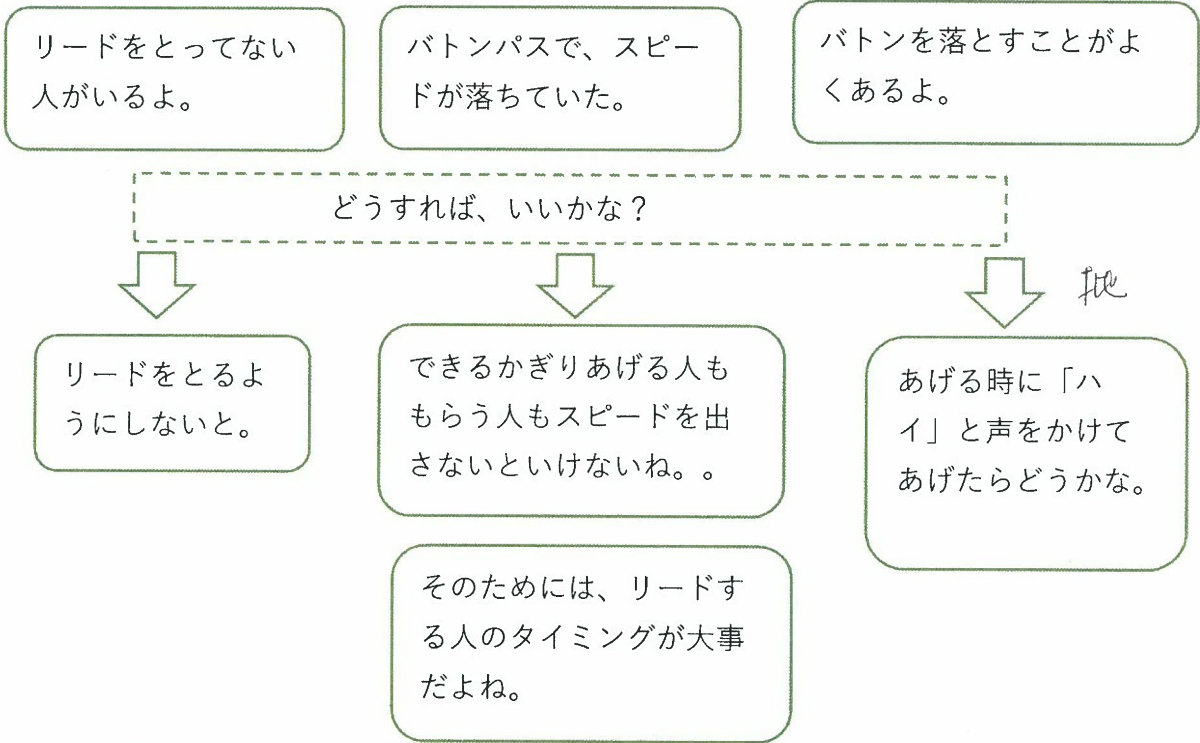
佐伯市立鶴岡小学校 氏名 (御手洗 貴裕)

学年 (5 年) 教科 (体育)

単元名	短距離走・リレー
主 眼	どうすればチームの記録が伸びるかを考え、練習に取り組むことができる。
評価基準【観点】	自分の課題を設定し、それにあった練習方法を選択したり、考えたりしている。【思考・判断】

1、アクティブラーニング実践場面

チームの課題を出し合って、自分たちに必要な練習をしよう。



2、所感

○ 子どもたちだけで話し合いをさせることで、受身でなくより主体的に話し合い活動を行うことができた。また、主体的に話し合っているので、その後の活動も意欲的、主体的に取り組むことができていた。

○ただ、何を話し合うかを具体的にしていあげないと話し合い自体が盛り上がらないしぼやけたものになってしまうと思った。